

感覚環境のまちづくりに向けて

東京大学都市工学専攻
花木 啓祐

感覚環境のまちづくりシンポジウム 2008年12月9日



感覚環境まちづくりの背景

- 問題対応型の環境対策から「プロアクティブ」な環境政策へ
- 生活の質(Quality of Life)への人びとの希求の高まり
- まちづくりを通じた環境政策への人びとの参加の実現



Quality of Lifeの達成度と環境へのインパクト

社会の発展段階 発展途上国 新興工業国 先進国

Quality of Life

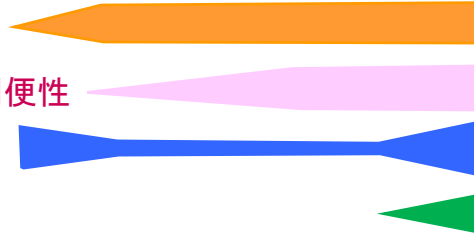
衛生・安全・教育

物質的豊かさ・利便性

精神的豊かさ、
文化、歴史

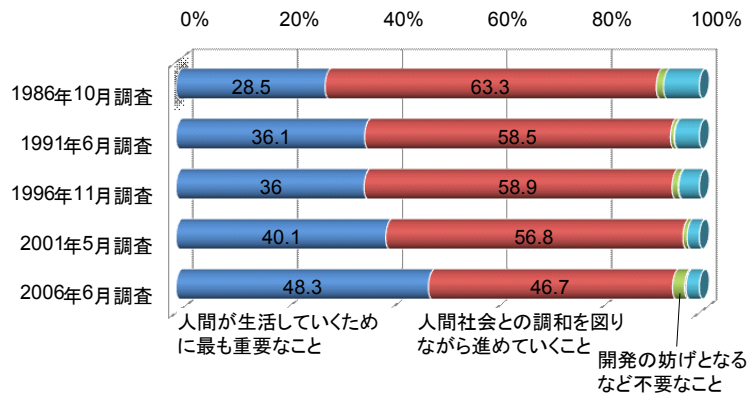
環境への配慮

環境への
インパクト



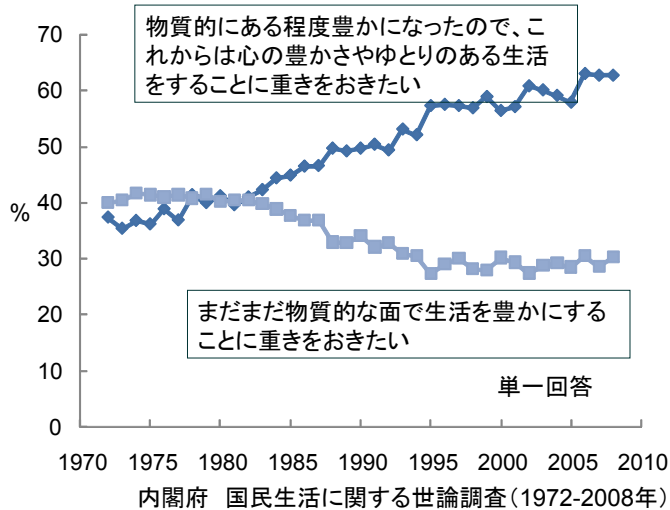
社会のニーズとその変化(1)

自然保護についての人びとの意識



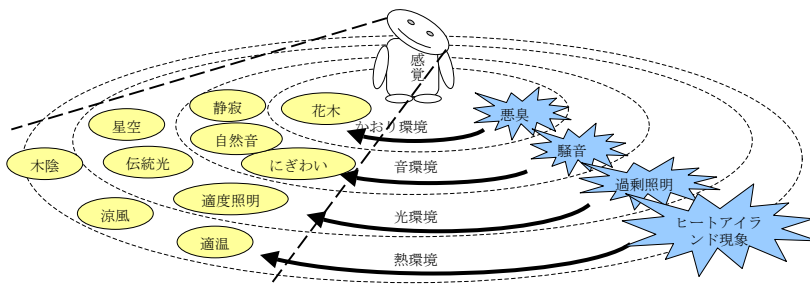
社会のニーズとその変化(2)

人びとの価値観の変化

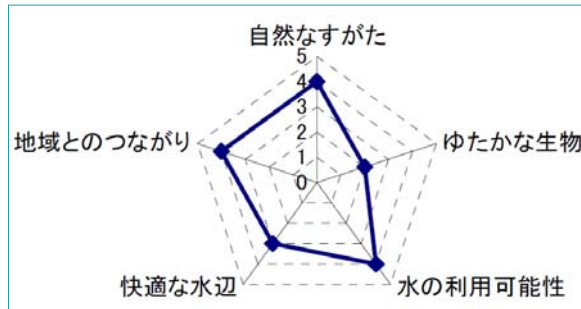


めざす環境質の変化

- 悪臭からよい香りへ
- 騒音からよい音へ
- 光害からよい光へ
- ヒートアイランドから風やみどりの活用へ



包含的な環境の場(都市の水辺の例)



<調査軸>	<意味>
自然なすがた	水辺環境が本来の自然な状態をどの程度維持しているかの把握
ゆたかな生物	水辺環境での生態系の豊かさ及び生物のすみ場についての把握
水の利用可能性	水質のきれいさからの水の利用可能性についての把握
快適な水辺	水辺環境のきれいさや静かさ等人の感覚的な把握
地域とのつながり	水辺環境と人とのつながりの度合いの把握

歴史・文化的要素とのつながり

- 地域固有の歴史・文化にふさわしい
かおり、おと、ひかり、ふんいき
<歴史・文化に乏しい地域は？>



ハード系インフラとの関連

- 価値を生み出すインフラの運用
<インフラ計画へのフィードバックは>

感覚環境の課題

- 定量化・一般化
- 個人差の考え方
- 多様性の維持



"いい感じ"が
感覚環境の
モノサシ

理由がわからないけど、なんだかちょっと"いい感じ"、ふとした瞬間、
あなたが感じた心地良さ、それを感覚環境のモノサシにします。

*1 感覚環境
感覚環境とは、目・鼻・舌・耳・皮膚の5つの感覚器官を通して、それによって私たちが
周囲の世界を認識し、理解し、感じる環境のことです。感覚環境は、物理的な環境と、心理的な環境とを
含むものであり、その両方を合わせたものが感覚環境となります。

感覚は環境を知るセンサー

次記きそぞろ歩いていて、次第にきらきらと反射する光、細き葉しくなで
る風に舞やかな心地よきを感じ、また土手の草花に歩けば、種やかなせら
ぎと太陽のぬくもり、そしてほのかに漂ってくる花のかがりにはっと人心が
びくつき——「きらきら反射する光は目から、「せせらぎは耳から、「太陽の
ぬくもり」は肌で、「花のかがり」は鼻で感じています。

このように、人がまわりを認識するときには、音、かがり、光、匂いなどを体
全体の様々な感覚で感じ取っていますが、私たちは普段、こうした様々な感覚
に気づかれながらも、とりたてて意識することもなく暮らしています。

感覚環境のモノサシを使う

音・かがり・光・匂いといった感覚環境は、私たちの暮らしに、どのような影響を与えているのでしょうか。

感覚環境は移るし、変化するし、さらに、その際、その時でしか
味わえない空間を演出します。さらに、光や音、かがり、風
などをきっかけとして、かけがえのない思い出がふと蘇っ
てくることもあります。音・かがり・光・匂いから、季節や時
代の移り変わり、そのまわりの個性やそのまちならでの雰
囲気といったものが思い起こされます。

無言行なわなく感じているこれらの感覚が、より良く、よ
り豊かに暮らしていくための重要な役割をもっているこ
とに気づくこと。そして、「いい感じ」かどうか評価すること。
感覚環境のモノサシをうまく使うことが大切です。このよ

うなことを選べ、より良く地域の魅力や特性を捉え、次世
代へと伝えていくことが必要です。

いい感じ いやな感じ

多様な感覚環境の満足

嗜好品

- 一部のグループのQOLを満たす
- 品揃えで対応(多品種少量生産)

まちづくりの場合

- 私有部分(住宅)←選択の自由あり
- 公共部分←選択の自由限定
- 住民の多様性
- ライフタイムの長さ

多様な感覚環境の満足の戦略

- 平均的に各住民の満足度を充足
- ある住民層の満足度を特に重視
 - まちの特徴
 - + 全住民層の満足度を最低限確保

感覚環境まちづくりの普及と発展

- Good Practiceの発掘
 - 感覚環境面での新しさ
 - 参加型活動としての価値
- 学術的根拠
 - 感覚環境の定量化
 - まちづくりとしての効果の評価
- 公共事業としての妥当性
 - 便益の評価